【 柳川市文化芸術推進基本計画に伴うR6年度市内の文化芸術活動の状況について 】

柳川市文化芸術推進基本計画 ■方向性・テーマ ■基本施策 ■実行プラン ◆・・・新しい取り組み例　〇・・・既に実施している取り組み	これまでに取り組んだ事業 赤・・・R6新たに取り組んだ事業 緑・・・R5新たに取り組んだ事業 黒・・・R4以前に取り組んでいる事業	①実施状況 ②今後の課題	審議会意見	今後の取り組み
①柳川らしさの浸透　～心豊かに暮らせる文化的なまちづくり～				
I-① 文化芸術や文化資源の まちづくりへの活用				
I-① 新たな文化芸術資源の発見・活用 ◆空き家や遊休地を活用した文化芸術活動 ◆文化資源を活用した展覧会、コンサート等 〇まちづくりに関する地域住民とのディスカッション 〇市民団体や他自治体との連携等による「旧綿貫家住宅」の活用	・「RE－MEMBRANE」（エドガー氏AIR事業）（生涯学習課） ・柳川現代美術計画Ⅱ（吉田重信）（生涯学習課）（R5～） ・ピースツリーとこっぽりーの音楽会（生涯学習課）（R5～） ・たゆたうからたち（調原作）（生涯学習課）（R5） ・旧戸島家住宅でのさげもん展示(生涯学習課） ・水郷柳川掘割地区まちづくりワーキング(都市計画課） ・旧綿貫家住宅アーティスト・イン・レジデンス事業（生涯学習課）	① 柳川現代美術計画ⅡやAIR事業において、展示場所を拡充したり、学校や障がい者関係施設等でのアウトリーチを開催するなど、昨年よりも内容を充実させた。また、昨年度、イベント会場が分かりにくいという意見がでていたため、パンフレットやSNSを活用してできる限りの広報を行った。 ②企画展や野外での音楽会は、事業は好評で喜ばれるが、気候によっては、訪れる方の負担が大きくなる場合があるので、開催時期など検討する必要がある。また、開催場所の周知等を更に充実させる必要がある。	・保存可能な歴史的建物がどんどん解体されている現状を残念に思う。例えば、芸術アートの場などいろいろなことに活用できないか。また、学生などのボランティア活動ができないか。	・イベントの広報等周知方法のさらなる検討を行う。 ・暮らしに身近な文化芸術に触れる機会を増やすとともに、文化芸術資源の新たな活用を図る。 ・空き家や遊休地を活用した文化芸術活動ができる機会を創出する。 ・文化資源を活用した展覧会、コンサート等を行う。
I-② まちなかで文化芸術に触れる 機会の充実				
I-② まちのあらゆるところで文化芸術に触れる機会の創出 ◆商店街や公園などのまちなかで実施される文化芸術活動への支援 ◆公園・駅前広場等で実施される文化芸術活動の利用者や予約方法などのさらなる利便化 ◆川下りなどの観光資源、自然環境資源を市民が文化芸術活動の拠点や回遊の手段として活用することができる活動	・北原白秋生家記念館での白秋生誕140年記念ミニコンサート（生涯学習課） ・水郷柳川ゆるり旅における柳川ならではの文化や芸術体験プログラムの実施（観光課） ・駅前スペースの活用（商工・ブランド振興課）（R5～）	①今年度は文化会館だけでなく、白秋生家記念館でもミニコンサートができ、好評を得た。また、「ゆるり旅」で文化芸術を取り入れた体験イベントを行ったり、駅前スペースの活用の一つに黄色いおひな様の展示をするなど、観光産業分野の課や観光協会などが企画した文化芸術に触れるイベントを行った。 ②今後は他課との連携を取りながら、既存事業を活用し文化芸術の面で更に充実させた事業に取り組む必要がある。	・特に文化施設以外ででコンサートやイベントなどを行う際は、逆光にならないかなどの鑑賞者の立場にたって配慮をしてほしい。	・ゆるり旅など、関係課と連携し、既存事業のさらなる充実を図る方法を検討する。 ・現行の市民文化会館でのロビーコンサートのような、オープンなスペースで気軽に参加できる文化芸術事業を実施する。 ・市内の商業施設や空き家、公園などの活用を図り、まちなかで実施される文化芸術活動への支援を行う。 ・公園・駅前広場等で実施される文化芸術活動の利用者や予約方法などのさらなる利便化を図る。
②機会づくり　～文化芸術による社会包摂に向けた場づくり～				
2-① 誰もが文化芸術を 鑑賞・創造・発表できる機会の創出				
2-①-a 障がいのある人の文化芸術の鑑賞・創造・発表の場の充実 ◆障がい者（児）福祉施設を対象としたアウトリーチ事業 ◆障がいのある人を対象とした鑑賞サポートの取り組み ◆障がい当事者団体などと協働した映画上映会 〇障がい者（児）福祉施設の利用者を対象とした造形教室 〇障がいの有無に関わらない芸術作品の展覧会	・まごころアート展inやながわ（生涯学習課） ・柳河特別支援学校でのアウトリーチ（AIR事業）（生涯学習課） ・障がい者アートレンタル事業に向けた打合せ（生涯学習課）（R5）	①県が実施している障がい者のアートレンタル事業を本市でも実施できたことはよかった。また、AIR事業の中で柳河特別支援学校でのアウトリーチが今回初めてでき、施設に通うたくさんの子供たちに喜ばれた。 ②今後はこのアートレンタル事業をきっかけに、本市の障がいのある方の作品を発表できるような仕組みを検討する必要がある。また、障がい者施設等でのアウトリーチ事業に積極的に取り組んでいく必要がある。	・スイスは、障がいを持った人への対応が素晴らしい。費用もそこまでかからないのでバレエダンサーなどの芸術家に来てもらい紹介できないか。 ・障がい者就労施設利用者の方達の発表の場を具体的にできないか。 ・まずは鑑賞支援。水都やながわなど施設に見に来るためのハードルをなくすことから始め、段階を踏み、発表ができる場の提供を進めていく必要があるのでは。	・担当部署から障がい者施設等の現状を把握。 ・障がい者アートレンタル事業において、市民の発表の場につなげていく仕組みづくりを行う。 ・障がいのある人が文化芸術事業に触れやすくなるよう配慮を促し、現行の障がい者による文化芸術事業の周知を図り、広く市民が来場、交流できるような取り組みを進める。 ・障がい者（児）福祉施設を対象としたアウトリーチ事業を行う。 ・障がいのある人を対象とした鑑賞サポートに取り組む。
2-①-b 高齢者の文化芸術の鑑賞・創造・発表の場の充実 ◆高齢者福祉施設などを対象としたアウトリーチ事業 〇認知症カフェにおける文化芸術活動 〇介護予防の取り組みとして、地域の拠点において文化芸術活動の実施	・介護事業所や地域の寄り合いの場での活動を希望する個人や団体の一覧（柳川市芸能・講座活動者一覧）の作成（福祉課） ・認知症カフェによる文化芸術活動（福祉課） ・地域サロンでの文化芸術活動（福祉課） ・地域ディサービスでの文化芸術活動、敬老会での文化芸術活動(福祉課） ・介護予防の取り組みとして、地域の拠点において文化芸術活動の実施（福祉課）	①今年度は福祉課が、新たに介護事業所などでの柳川市芸能・講座活動者一覧の作成を行った。このことにより、施設や地域等において文化芸術を取り入れた催しを行いやすくなった。 ②今後、この「活動者一覧」を活用し、入居者が体験や活動の場など文化芸術に触れる機会を提供していく必要がある。	・今年度つくられた芸能・講座活動者一覧はすごくいい。こういうことを通じて、人材バンクとかネットワークをつくるようなところにも繋がっていくとよい。	・より多くの高齢者の方に文化芸術を届けていくため、「活動者一覧」を活用しやすい仕組みづくりを行う。 ・高齢者施設等の現状を把握し、高齢者福祉施設等を対象としたアウトリーチ事業に取り組む。 ・高齢者が文化芸術事業に触れやすくなるよう配慮を促し、高齢者による文化芸術事業の周知を図り、広く高齢者が来場、交流できるような取り組みを進める。

■方向性・テーマ ■基本施策 ■実行プラン ◆･･･新しい取り組み例　○･･･既に実施している取り組み	これまでに取り組んだ事業	①実施状況 ②今度の課題	審議会意見	今度の取り組み
2-①-c 誰もが体験・鑑賞できる環境づくり ◆文化芸術に対するアクセシビリティ（接しやすさ）に関する調査 ◆全ての人に情報が行き届き、アクセスできるための方法の検討 ○柳川市民文化会館におけるロビーコンサート、ストリートピアノなどの実施	・歴史的庭園の企画展・講演（生涯学習課） ・北原白秋生誕140年記念事業「企画展　白秋のみた柳河～受け継がれる水の構図」（生涯学習課） ・能登半島地震輪島支援特別上映「幻の光」（生涯学習課） ・suitoART STREET vol. 5（生涯学習課） ・ロビーでパフォーマンス事業　朗読劇「老人と海」 ・柳川市総合美術展（生涯学習課） ・北原白秋顕彰短歌大会（生涯学習課） ・市民文化会館でのロビーコンサート（生涯学習課） ・市民文化会館でのストリートピアノ（生涯学習課） ・中央公民館講座（生涯学習課）	①今年度は白秋生誕140年記念事業の一環で、様々なイベントを企画し、多くの方に鑑賞いただいた。また、ロビーを活用した取り組みとして、朗読劇を行う等、新たな企画を行った。周知にも力を入れ、多くの観客が入った。 ②ロビーでのイベントは、参加者が多くなるとイベントホールへの移行や観覧料を検討する必要がある。また、市民ミーティングで出た高校生の意見などを取り入れ、実現の場に向けた取り組みが必要である。	・朗読劇は、人が行き交うロビーよりも空間が仕切られた静かな場所の方が効果があるのでは。 ・また詩を愛好する方々が、集まってお茶を飲みながら朗読するような居場所ができればいい。	・既存事業の情報収集や提供の方法を見直し、全ての人に情報が行き届き、アクセスできるための方法を検討する。 ・子どもや子育て中の方が文化芸術活動に積極的に参加しやすくなる環境の整備を行う。 ・文化芸術に対するアクセシビリティ（接しやすさ）に関する調査を行う。
2-② 子どもや子育て中の方 の文化芸術の 鑑賞・創造・発表の場の充実				
2-② 子どもや子育て中の方の文化芸術の鑑賞・創造・発表の場の充実 ◆幼稚園・保育園、小中学校を対象としたアウトリーチ事業 ◆子育て支援施設を拠点としたアウトリーチ事業 ○子どもと親のための文化芸術活動 ○小中学校の音楽発表会 ○中学校文化連盟による絵画、書道などの展示 ○幼稚園児・保育園児を対象とした演劇鑑賞会 ○小学生を対象とした演劇等鑑賞会 ○児童合唱団 ○白秋祭献詩（献詩の募集、白秋祭式典での表彰、朗読）	・やながわトライアルキャンパス（発掘体験・掘割のお庭巡り・こどものための美術館ツアー）（生涯学習課） ・小学校での竹楽器演奏・体験アウトリーチ（AIR事業）（生涯学習課） ・小学生の光の鳥展示（生涯学習課）（R5～） ・子どものためのコンサート（生涯学習課）（R5～） ・宮島達男氏　時の海ワークショップ（生涯学習課）（R5） ・アクロスミュージックキャラバンミニコンサート（生涯学習課）（R5） ・suito鉄道広場（生涯学習課）（R5） ・リトミックひろば（生涯学習課） ・ニツ川ウォッチング（生涯学習課） ・小学校白秋音楽まつり(学校教育課） ・中学校音楽発表会（学校教育課） ・市民文化会館での中学校文化連盟による絵画、書道などの展示（生涯学習課） ・幼稚園児・保育園児を対象とした演劇鑑賞会（生涯学習課） ・子どもの健やかな成長を願う実行委員会による演劇等鑑賞会（生涯学習課） ・白秋献詩（献詩の募集、白秋祭式典での表彰、朗読）（学校教育課） ・アートひろばやながわイベント（市民団体）	①今年度はやながわトライアルキャンパスとして、子どもを対象とした様々な分野でのイベントやアウトリーチなどを取りまとめ、新たな周知方法での取り組みを行った。どの事業も好評で、参加者から喜んでもらった。また、AIR事業の一環で小学校でのアウトリーチ事業ができ、異国の竹楽器の演奏、体験の場を提供でき、子どもたち大変盛り上がった。 ②トライアルキャンパスは継続していく方向であり、その中でも開催して好評であったり、ためになるようなイベントは単発で終わらず、先を見越して継続できるような企画をしていく必要がある。その先に発表できる場など、次につながるような企画も要検討。 また、事業は好評で喜ばれたが、周知において早い時期に広報掲載、パンフレット配布をしてしまうため、年度後半にあるイベントにおいて、応募が伸び悩む。周知期間や周知方法が課題。	・市内の音楽家協会の方たちによる生の演奏を園児たちに聞かせたら、すごく喜んでいた。身近なところにこのような演奏をしていただける先生たちがいらっしゃるのは新たな発見だった。	・イベント内容の充実を図るとともに、事業の周知を早めにスケジューリングし、事業の着手に取り組む。 ・社会教育の観点から、児童を対象とした体験事業の充実と文化芸術体験事業も実施していく。 ・子ども・親子対象の事業、体験・参加型の事業を増やす。 ・幼稚園・保育園、小中学校を対象としたアウトリーチ事業を行う。 ・子育て支援施設を拠点としたアウトリーチ事業を行う。 ・学校や芸術家団体へのヒアリング、他自治体での事例の調査を行う。実施ジャンルについて検討する。
③人づくり　～文化芸術活動がさらに活発になる人づくりと環境づくり～				
3-① 文化芸術活動の担い手の ネットワークと情報基盤整備				
3-①-a 文化芸術活動を行う個人や団体のネットワークの構築 ◆白秋祭などの大規模イベントを契機としたネットワークのための場づくり ○文化芸術活動の担い手同士をつなぐワークショップ	・北原白秋生誕140年記念事業実行委員会の開催（生涯学習課）（R5～） ・YANAGEIワークショップ（生涯学習課）	①YANAGEI ワークショップでは、今回市民の方にも運営側に入っていただき、市民目線での意見を伺いながら進めることができた。また、今年度は市民ミーティングの中で、市民の意見を来年度実現できるよう協議を進めた。 ②YANAGEI ワークショップにおいて、今後もネットワークの場として、どのように展開して行くのか要検討。	・市民参加のワークショップで意見を出し、仲間ができ、次の実現の場に繋がるようなステップがより明確に分かれていくと、新しく関わる方にも分かりやすいと感じる。	・文化芸術のジャンルを超えた活動の担い手同士のネットワークがさらに活発になり、事業が立ち上がるよう連携や融合を図る。
3-①-b 文化芸術活動を行う個人や団体の活動の場の創出 ◆文化施設以外の地域拠点や店舗等での活動を促進する仕組みづくり ◆地域の中で文化芸術の拠点として活用できる場所の集約 ○柳川市文化協会への活動支援 ○地域の公民館を拠点としたレクリエーション、自主サークル発表会などの充実	・文化協会文化祭（文化協会） ・県民文化祭の実施（文化協会、生涯学習課）（R5） ・柳川市文化協会活動補助金（生涯学習課） ・全国大会出場文化関係激励費助成金（生涯学習課） ・校区公民館での文化芸術活動（生涯学習課）	①文化協会において、日常の活動に対する支援の他、文化協会の活動補助金を支出。また、全国大会出場における激励費の補助金を9人に支出した。 ②少子高齢化の影響による会員数の減少等、文化協会の存続のために支援の方法を検討する必要あり。	特になし。	・地域の中で文化芸術の拠点として活用できる場所を集約する。 ・市内で文化芸術活動を行う個人・団体に対し、活動場所の提供など、多面的な支援を行う。 ・文化施設以外の地域拠点や店舗等での活動を促進する仕組みづくりを行う。
3-①-c 文化芸術の担い手とのマッチング支援 ◆文化芸術に特化した人材バンクの作成と活用 ◆活動を始めたい人に対する相談窓口、目安箱の設置 ◆柳川市民文化会館におけるコーディネート機能の充実	人材バンク作成の取組の検討（生涯学習課）（R5～）	①文化芸術に特化した人材バンクの作成における取組の検討までは手が回らなかった。介護事業所や地域の寄り合いの場での活動を希望する個人や団体の一覧（柳川市芸能・講座活動者一覧）の作成を他課で行った。 ②人材バンクの作成に取組むうえで、他団体における情報等が必要。	・他自治体では、人材バンク的な文化芸術に特化したウェブサイトを作成している。ウェブサイトの構築は費用も労力もかかり大変だと思うが、ここの分野に近いことかな思う。	・文化芸術に特化した人材バンク的なものを作成するため、他自治体等から情報収集を行い、作成に向け検討を行う。 ・活動を始めたい人に対する相談窓口や目安箱の設置などを行う。 ・文化芸術活動の担い手と受け手をつなぐためのマッチング機能を充実させる。 ・柳川市民文化会館におけるコーディネート機能の充実を図る。

■方向性・テーマ ■基本施策 ■実行プラン ◆・・・新しい取り組み例　〇・・・既に実施している取り組み	これまでに取り組んだ事業	①実施状況 ②今度の課題	審議会意見	今度の取り組み
3-② 文化芸術活動を 支える人材の育成				
3-② 文化芸術活動の企画・運営者（団体含む）への支援 ◆柳川市民文化会館やその他の拠点における文化芸術に関する市民提案企画への支援 ◆アートマネジメント人材育成講座 〇市民サポーター制度の充実	・市民ミーティング（生涯学習課） ・大型鑑賞事業での市民サポーターの活用（生涯学習課） ・市民サポーター研修（話し方講座、アナウンス講座、フロント接遇サポーター講座（生涯学習課）	①市民ミーティングにおいて市民による企画立案ワークショップを3回行い、来年度の実現に向け、高校生も含め話しあった。また、市民文化会館の市民サポーター研修を年数回行い、大型鑑賞事業で活用している。 ②市民提案企画への支援について取り組む必要がある。また、文化芸術に興味がある方、前向きな方など活動を支える人材の育成方法を検討する必要がある。	・アートマネージメントにおいて、指導者など人材育成をしていただけるような人材がなかなかいないので、これから発掘していくことが課題でもある。	・文化芸術活動を支える人材を育成する。 ・柳川市民文化会館やその他の拠点における文化芸術に関する市民提案企画への支援を行う。 ・アートマネジメント人材育成講座を行う。
④地域ブランディング　～柳川らしさを活用したまちの魅力づくり～				
4-① 文化芸術や文化資源を活用した 観光・産業の魅力づくり				
4-① 文化芸術や文化資源を活用した観光・産業の魅力づくり ◆地元の学校や企業、芸術家等と協働した新たな観光やブランド振興などのあり方の検討 〇北原白秋など文人の顕彰活動（白秋祭水上パレード） 〇立花宗茂など偉人の顕彰活動（「やながわ人物伝」の作成など） 〇掘割を活用した持続可能な観光のあり方の検討 〇伝統工芸品（さげもん、柳川まり、花ござ等）の活用 〇郷土料理であるうなぎのせいろ蒸しなどの食文化の普及 〇風流、どろつくどん、中島祇園などの地域の伝統文化の継承及び活動支援 〇その他	・北原白秋生誕140年記念事業合唱コンサート（生涯学習課） ・白秋生誕140年記念をきっかけとした少年少女合唱団の結成（生涯学習課） ・名勝水郷柳河主要川下り沿いの樹木保存管理支援事業（生涯学習課） ・雲龍マンガの制作（生涯学習課）（R5） ・高校生企画の芸術スポットスタンプラリー（生涯学習課）（R5） ・うなぎダンスの制作（市民団体）（R5） ・出前講座（柳川の歴史を知ろ・弥生時代の柳川、干拓の歴史）、名勝水郷柳河、北原白秋顕彰短歌大会、白秋祭式典、武田千代三郎杯柳川市駅伝競走大会、市民文化会館にてさげもん展示、風流等補助金（生涯学習課） ・北原白秋など（安東省庵、檀一雄、木村緑平、石田昌、長谷健、田中吉政）、文人の顕彰活動（市民団体） ・水郷柳川ゆるり旅における柳川ならではの文化や芸術体験プログラムの実施、立花宗茂と誾千代を題材としたNHK大河ドラマ招致活動の実施、川下り（灯り舟、こたつ舟など）コンテンツの磨き上げや新規造成、柳川雛祭りさげもんめぐりの普及啓発、フィルムコミッションによるロケ対応、おもてなしの心日本一」事業（早朝一斉清掃、白秋祭水上パレード時のおもてなし、小学生向け地域発見フィールドワークなど）の推進、やさしい日本語ツーリズムの推進、うなぎのせいろ蒸しなどの郷土料理の普及、国内（東京、大阪、新潟）、国外（タイ、台湾）における観光プロモーションの実施、旧街道＆旧小路まち歩きマップの作成、白秋祭水上パレードフォトコンテスト（市観光協会）、お雛様フォトコンテスト（市観光協会）、中山大藤まつりフォトコンテスト（中山大藤まつり実行委員会）の実施、有明花の里振興事業（中山大藤まつり、椛島菖蒲園、柳川ひまわり園、梅の木街道、など）の推進、柳川の食文化を活用したフードツーリズムの推進（観光課） ・さげもん、柳川まり、蒲池焼などの工芸品の保護、普及、柳川フェアの実施、よかばんも～柳川HP運営、やながわよかもん館プロモーション事業、柳川認定品PR、よかもんまつり（商工・ブランド振興課）	①白秋生誕140年記念合唱コンサートにおいては、近隣市町の少年少女合唱団や、白秋ゆかりの市町の合唱団、市内合唱団などを招いて、一日を通し合唱コンサートを開催。また今年度は、合唱コンサートで発表することを目的に、少年少女合唱団を結成。白秋の生誕をお祝いするいいスタートとなった。 生涯学習課だけでなく、各団体や、他課において、文化芸術に関するさまざまな取り組みを行っている。 ②各事業において、文化芸術をどのように進めてていくかを企画の段階で検討する必要がある。 地元の学校や企業、芸術家と協働した観光・産業との取り組みにおいては、各方面での情報収集に努める必要がある。 来年度以降も結成した少年少女合唱団「やながわsuito合唱団」の自主運営に向けた支援が必要。	・同じようなイベントが、水都やながわと水の郷で日程が重複し残念だった。前もって調整できなかったのか。 ・子ども合唱団の自主運営は大変だが、続いてほしい。	・文化芸術や文化資源を観光や産業に活用し、より幅の広い発信を行っていく。 ・地元の学校や企業、　芸術家等と協働した新たな観光やブランド振興などのあり方を検討する。
⑤基盤づくり　～文化施設や柳川の資源を活かした土壌づくり～				
5-① 文化施設・資源への アクセスの向上				
5-① まちなかの文化資源や文化芸術に関するアクセスの充実 ◆文化拠点マップなど市内全域の文化芸術活動を発信するための仕組みづくり ・柳川市民文化会館の広報誌やSNSの充実 ・白秋歌碑マップ	・旧綿貫家住宅の紹介パンフレット作成（市民団体） ・各拠点施設のこてんの案内板の設置（都市計画課）（R5～） ・全国AIR事業がまとめられたサイトへ旧綿貫家住宅の情報を掲載（生涯学習課）（R5～） ・市民文化会館のホームページ、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、ラインの活用（生涯学習課）	①昨年度から各拠点施設に市内の案内板を設置し、市民に活用されている。また、文化会館を中心にSNSなどで情報発信を行っている。さらに、今年度から文化財関係でGISを活用している。 ②今後、GISを活用したさらなる情報発信を行っていく必要がある。	・イベントの時は、西鉄電車で来られる方もたくさんおられるためバス停でかなり並ばれる。特別なバスを出すなど駅までの交通手段を計画できないか。	・市内の文化芸術に係るさまざまな資源（人、作品、会場、文化財など）の情報を整理、収集して、活用の促進を図る。 ・文化拠点マップなど市内全域の文化芸術活動を発信するための仕組みづくりを行う。
5-② 文化施設・資源の適切な 維持・保存・活用				
5-② 文化施設・資源の適切な維持・保存・活用 ◆芸術ワークショップの実施 〇市内他拠点のイベント情報の相互発信 〇柳川市民文化会館における大型鑑賞事業 〇その他	・旧綿貫家住宅の紹介動画（市民団体）（H5～） ・市民文化会館での各種芸術ワークショップ、各庁舎、各施設でのイベント情報等のチラシ設置、各種鑑賞事業、講演、柳川「有明海」なんでん体験隊、子ども会レクレーション（オセロ大会）、おもてなし健康マラソン大会、古文書館にて各種企画展、日記を読む会、古文書解読講座、入門講座、・文化財火災想定訓練（生涯学習課） ・三橋町内一斉清掃、大和町ビューティークリーン、塩塚川、沖端沿いにてリバークリーン（生活環境課） ・クリーンアップ大作戦（水路課・都市計画課ほか） ・道守活動（都市計画課） ・水まつり（企画課） ・河川浄化啓発ポスター、作文の公募作品展の開催（水路課） ・筑後川、矢部川河川美化「ノーポイ」運動（建設課）	①市民文化会館での鑑賞事業の他、各種芸術ワークショップを開催。 生涯学習課だけでなく、他課においてもさまざまな取り組みを行っている。河川、掘割りにおいても市民と協働した清掃活動を通して、資源の適切な維持、保存を行っている。 ②清掃活動等とおして、市民全体で文化、観光資源を守っていこうという意識づけを行う必要がある。また観光地の発展につながるような環境整備も必要。 また、鑑賞事業の他、体験型、参加型のワークショップなど新しい取り組みを行っていく必要がある。	・資源の維持、保存は大事なこと。今後も継続を。また、活用においては、様々な方法で広報し、活用していく必要がある。	・文化施設で実施する鑑賞事業などを充実させるとともに、その他資源を活用し、体験型、参加型のワークショップなど新しい取り組みを行っていく。 ・文化施設・資源をさらに適切に保存、活用し、他団体などと連携した取り組みを行う。それぞれの魅力を向上させ、機能充実を図る。
5-③ 文化芸術に関わる団体・組織の垣根を超えた 交流の促進				
5-③ 文化芸術の推進体制の構築 ◆行政内部の領域横断的な組織体制づくり	・文化芸術推進ワーキングチーム（生涯学習課） ・まちづくりワーキンググループ会議（都市計画課） ・全庁的な出前講座（人事秘書課）	①庁内ワーキングチームは継続しているが、会議が開催できなかった。資料作成のための照会にとどまった。 ②庁内のワーキングチームにおいて、前向きな意見を引き出せるよう会議内容の充実を図る必要がある。	・生涯学習課だけでなくいろいろな分野の課が集まって議論をする場があることは大事。継続していく必要がある。	・行政内部の領域横断的な組織体制を継続する。 ・企業や医療、福祉、教育などの様々な分野において行政と連携した組織体制を構築していく。